

排ガス規制厳格化の動き、世界で加速

◆欧州は2017年9月から、新「実走行排ガス試験」を適用開始

2015年に発覚した排ガス不正問題、18年に北米で強化されるZEV(排ガスゼロ車)規制などを背景に、世界的に排ガスの規制強化、電動車両導入の動きがある。

経済産業省と国土交通省は、16年10月、乗用車等の燃費基準達成判定に国際基準(WLTP)を導入した。乗用車などの排気ガスおよび燃費算定試験法は、既存のJC08モードによる試験法に替え、WLTPによる試験法で判定することが可能となる。なお、排出ガス規制におけるWLTPへの切替えは18年10月以降に予定されている。

海外では、欧州委員会が17年9月から新たな検査法となる「実走行排ガス試験(RDE)」の適用を始める。試験室での台上試験(Euro 6c)と異なり、公道で排ガス測定装置を搭載した自動車を走行させ、窒素酸化物(NO_x)、PN(粒子状物質数)、CO(一酸化炭素)などの排ガスを測定する。対象となる新型車では、ガソリン車、ディーゼル車ともに、17年の NO_x 値は台上試験の2.1倍以下に規制される。

欧州環境庁によると、実地走行では NO_x の排出量は試験値の7倍以上、 CO_2 は40%も増加する場合があるという。試験室での現行の法定試験が実際の走行状況と異なることや、環境条件などによって変動することが要因とされている。

欧州カテゴリー(新型車)の NO_x 排出ガス上限値

試験方法	排ガス規制	適用時期	NO_x 排ガス基準値: NO_x (mg/km)		台上試験比
			ガソリン車	ディーゼル車	
路上試験 (RDE)	EURO 6d-TEMP	2017年9月1日	126	168	2.1倍
	EURO 6d	2020年1月1日	90	120	1.5倍
台上試験	EURO 6c	2017年9月1日	60	80	—

◆大気汚染が深刻な新興国でも、排ガス規制強化

大気汚染が深刻な中国やインドでは、車両規制や大型ディーゼル車の登録禁止など緊急措置も講じられている。中国は現在Euro4に相当する規制を適用しているが、17年にはEuro5基準と同等の排ガス規制「国5」を適用する予定である。またインドは、17年4月からすべての車両で排ガス基準などの記載を義務付ける。新興国でも排ガス規制が強化され、世界水準へと引き上げが進む。 【米山久美子】